

# 資本主義

2010年11月、米国ペンシルバニア、ブランデーワインワークショップでの  
ティム・ジャキンズの話

私たちの多くは、資本主義が延々と続くことに、ただ反対しているのではありません。むしろ、どのようなシステム、誰によるものであっても、人が搾取されることに対して反対しています。今私たちが持っているシステムが、人びとに搾取をさせるので、それに反対するのです。もし世が封建主義だとすれば、それに反対するでしょう。他の人たちを搾取するよう駆りたてるのは傷の記憶であり、私たちはそれをなくすよう取り組んでいます。

この世には、いまだかつてすべての人について配慮し、すべての人の利益にかなうようにうまく機能するシステムがありませんでした。そのようなシステムを機能させようとする試みはありましたが、うまくいきませんでした。うまくいかなかったわけは、他者を利用しようとするパターンがなくなり、そうしたパターンをとり除く方法がなかったからです。すなわち、遅かれ早かれ、パターンは新たなシステムに埋没し、一そしてほら、あなたはもう新しい形の抑圧とともにいるのです。

抑圧的パターンをとり除く方法は、革命をおこして、抑圧者のパターンを最も完璧に遂行した人びとを根絶やしにすることでした。ところが、もちろん誰もがそうしたパターンをもっていることがわかりました。たまたま、抑圧する側の立場にいなかったというだけです。たとえどのようなグループが世を治める立場にしようとも、そのメンバーの大半に、搾取的な社会を持続させる抑圧者としての傷があったのです。

傷がそのパターンを再構築するのに数年を要するかもしれません。つかの間の変化が、しばし、ことを助け、物ごとはよくなりますが、再び、傷につかまりそれは凍りつきます。何度も繰り返されてきたことです。そして、人々が傷のために考えることができなくなる以上、それはまた起きます。傷がそこに存在する限り、私たちが今日のおこないよりは明日、さらによく考えられるように傷をディスチャージできないのであれば、私たちは窮地におちいることとなります。

私たちがしようとしていることは、私たちの多くが十分によく考えられるようになって、自分たちの臆病さを克服し、私たちのうちの一部分が、非搾取的な社会における次の試みを考えだせるよう人びとを助ける役割を果たすことです。次

に試みることは、人びとが前進し続けられるほど十分によく考え、本当に非搾取的なところに私たちを連れていってくれるのでしょうか？そうであればよいのですが、誰にもわからないことです。

よりよく考えられる人びとが増えてゆき、より多くの人びとを非搾取的で傷のない社会という概念に導くことができるにつれ、それはより現実のものとなってゆきます。私たちは、自分たちの臆病さを克服することで考えを分かちあい、人びとによく考えることができることを示したいと思います。人びとにそれについて考えるのではなく、よく考えることができることを示して、よい考えの数々を見せるのです。リーダーシップの一部は、人びとに最高の考えを示すことです。リーダーシップは、一つには、よい考えについて、人びとがそれを思いつく以前からわかっていることによって機能します。私たちは、自分ではそうした考えが浮かばないとしても、理解はできるし、それに従うことはできます。

あなたにはたくさんの良い考えがありますが、たいてい、それを秘密にしています。あなたは、いまだにあなたの最高の考えを誰にも打ち明けていません。あなた自身と他のすべての人の利益のために、それを変えていかななくてはなりません。正しい答えを知っているからということではないのです。間違っているときもあるでしょう。それでも、敢えてやってみるために、人は他の人たちが考え続け試そうとしていることをわかる必要があります。

傷のないシステムは、どのように見えるのでしょうか？何が必要なのでしょうか？ 私たちに必要なのは、どんな人であれ、どのような理由であれ、誰かを搾取したり利用したりすることが、絶対に許されないシステムです。経済システムは、一つの出発点ですが、同じように他のすべての関係において、この傷からの解放が必要なのです。経済システムを変えることから始めるとするならば、おそらく私たちは、そこに 1,000 の異なる構造を築きあげることができるでしょう。そして、その一つ一つが前進なのです。私は、たった一つの可能性しかないとは思いません。さまざまな可能性があると思っています。それが融通の利かないものであってほしくはありません。新たな可能性が現れてほしいと思っています。次の革命が起きるまで、固守しなくてはならないような構造のものは必要ありません。

RC では、私はみなさんに考えを伝えます—それがよい考えであれば、みなさんは採用します。私の仕事は、よい考えを集め、それをもってきて、すべての人に示すことです。それから、どれが実際に機能するかについて見極めます。さらに、それに磨きをかけます。洗練されたものだけを集め、それを再度もち込みま

す。そして、その考えは、ますます洗練されていくのです。私が伝えたからというよりもむしろ、物事が実際にうまくいくように、人びとが十分によく考え、よい考えについて議論を重ねた結果、コミュニティは変化します。

理想的な未来の社会では—たとえば、西アフリカで、新しい考えが台頭してくるでしょう。それはうまくゆきます。どこへでも、それは伝わります。他でもためされ、それはうまくゆきます。物事がその分、うまく進みます。もはや、誰ひとり、物事をそのままに固定してしまうような、凍りついた傷による個人的な利益の追求はしません。物事が常に発展し続けるのをみるのは、私たちすべての利益に叶っています。ここは絶えず考え続けていて、いつでも考えを発展させることができるのは自明のことです。社会こそが、その作用を止めさせてきたのです。

誰も搾取されることのない社会では、私たちの関係はどうなるのでしょうか？ 私たち自身の関係を解き明かす完全な自由を手に入れるとは、どういうことでしょうか？ そうした状況のもとで、私たちはお互いの考えを、どれほどよく伝えあうことができるようになるでしょうか？ そうなって、発達し改善が進めば、私たちの知性がより働き始め、理解が進み、事を成し遂げる力が加速されないことを想像することなどできはしません。やってみようではありませんか。

Capitalism

プレゼントタイム 2012年1月号 67 - 68 ページ より

Tim Jackins

翻訳 丸谷 郁子

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります（翻訳 2012年1月。原文 2010年）。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。